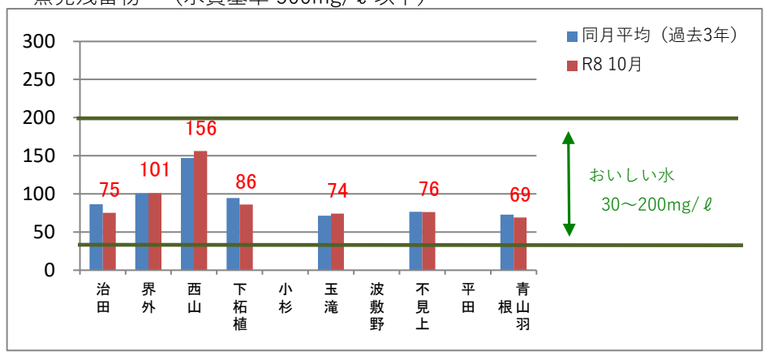
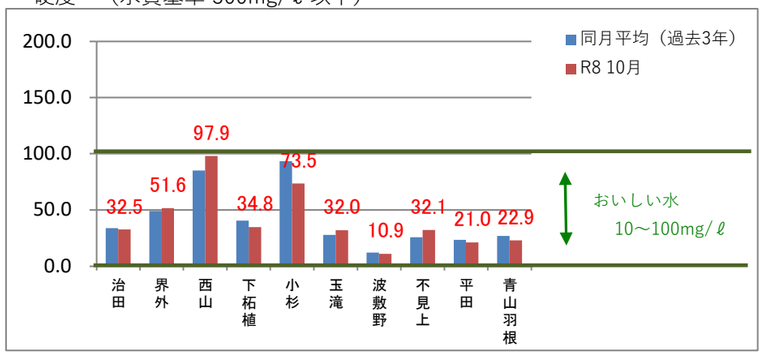
給水栓水質現況　２０２６(令和８)年１０月分

蒸発残留物　（水質基準 500mg/ℓ以下）



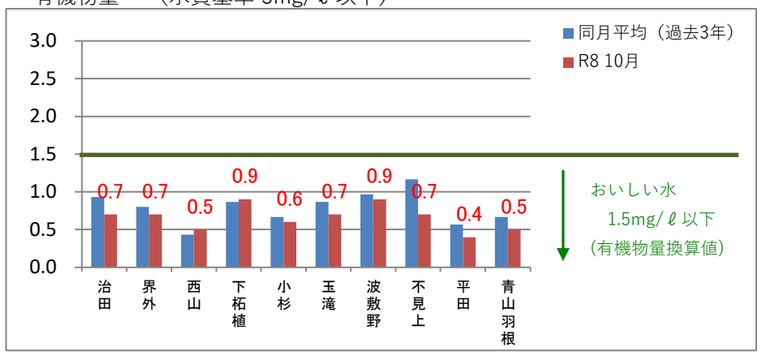
・水が蒸発した後に残る物質で成分は主にミネラル分。

硬度　（水質基準 300mg/ℓ以下）



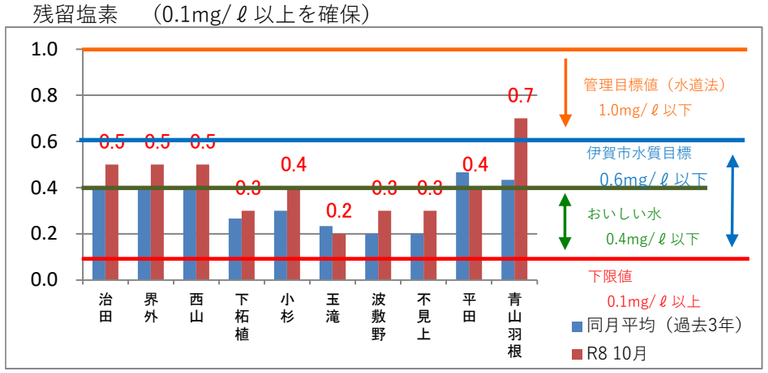
・主なミネラル分であるカルシウム及びマグネシウムの含有量を表す。
　おいしい水の条件としては、硬度成分が適度に含まれることが必要である。
・井戸水は変動が少なく高い傾向である。また河川水は変動が大きく低い傾向である。

有機物量　（水質基準 3mg/ℓ以下）



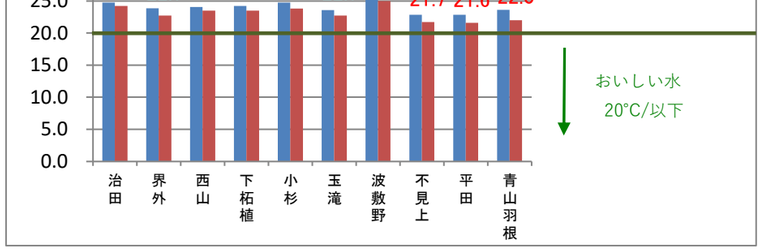
・水に含まれる有機物の量、多く含まれると消毒副生成物が増える原因となる。
・おいしい水の要件の範囲で推移している。
・井戸水は変動が少なく低い傾向である。また河川水は変動が大きく高い傾向である。

残留塩素　（0.1mg/ℓ以上を確保）



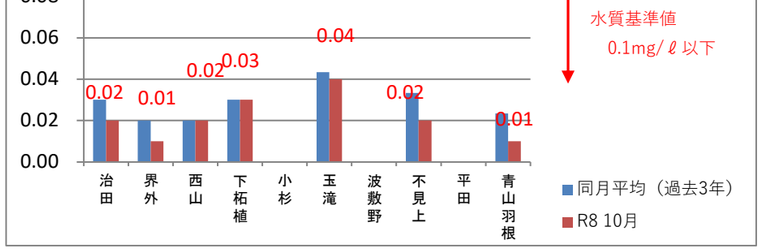
・水道水中に残留している消毒用の塩素のこと。
・衛生上、水道水は塩素が0.1mg/ℓ以上残留していなければならない。

水温



・一般的には15°C～20°Cがおいしく感じると言われてる。
・気温により大きく変動する。
・室温より水温が高くなると、「お湯」に感じることがある。

総トリハロメタン　（水質基準 0.1mg/ℓ以下）



・フミン質を含んだ原水を塩素処理することにより、その副生成物として生成される。
　トリハロメタンの水質基準は、発ガン性を考慮して決められた初めての水質項目である。
・水質基準値を十分に下回る数値で推移している。

水質検査地点（給水栓）

浄水場系統	ブレンド水	地点
ゆめが丘浄水場系統①		治田
ゆめが丘浄水場系統②	(小田浄水場)	界外
ゆめが丘浄水場系統③		玉滝
ゆめが丘浄水場系統④		不見上
小田浄水場系統		西山
滝川浄水場系統		下柘植
朝古川浄水場系統		小杉
丸柱浄水場系統		波敷野
山田浄水場系統		平田
阿保浄水場系統		青山羽根

※ 空白は、当月検査対象外の項目です。また、定量下限値以下は０と表示されます。
※ グラフは、給水栓の当月測定数値と過去3年間の同月測定平均値を示します。
※ 各地区の代表的な浄水場のデータをお示ししています。
　ここに記載のない浄水場　の水質データも、伊賀市ホームページで確認できます。

おいしい水の要件（おいしい水研究会まとめ:1985厚生省）

項目	範囲	適用
蒸発残留物	30～200mg/L	主にミネラル含有量を示しています。量が多いと苦味、渋みが増します。 適度に含まれると、こくのあるまろやかな味がします。
硬度	10～100mg/L	ミネラルのなかで量的に多いカルシウムとマグネシウムの含有量を示しています。硬度の低い水はくせがなく、 高いと好き嫌いがでます。カルシウムに比べてマグネシウムの多い水は苦味を増します。
遊離炭酸　※1	3～30mg/L	溶け込んでいる炭酸分の量を示します、水にさわやかな味を与えるが、多いと刺激が強くなります。、
有機物量	1.5mg/L以下　※2	有機物の量を示します。多いと渋みをつけ、多量に含まれると塩素の消費量に影響して水の味を損ないます。
臭気強度　※1	3以下	水源の状況によりさまざまなにおいがつくと不快な味がします。
残留塩素　※3	0.4mg/L以下	水にカルキ臭を与え、濃度が高いと水の味をまずくします。
温度	20°C以下	夏に水温が高くなると、あまりおいしくないと感じられます。冷やすことにより、おいしく飲めます。 一般的に15°C程度が適温と言われています。

※1 遊離炭酸、臭気強度の項目は、本市では測定しておりません。
※2 有機物量のおいしい水の要件は,過マンガン酸カリウム消費量3.0mg/L以下ですが、
　測定方法が見直され現在では、全有機炭素(TOC)を測定しているため、換算値1.5mg/L以下をおいしい水の要件としています。
※3 残留塩素のおいしい水の要件は、残留塩素0.4m g /L以下ですが、ゆめが丘浄水場の給水範囲広域化に伴い、2026(令和8)年度より衛生管理の向上を目的として、0.6mg/L以下を目標とします。